

村置4号線拡張工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

塩ノ井 山ノ神遺跡

2003

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

村道4号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発見調査報告書

塩ノ井 山ノ神遺跡

2003

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会



图-1



图-2



图-3

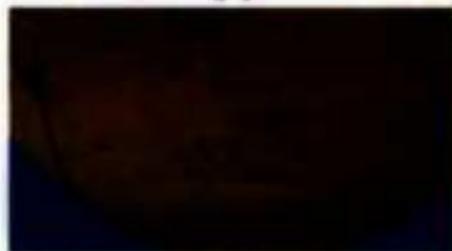


图-4



图-5

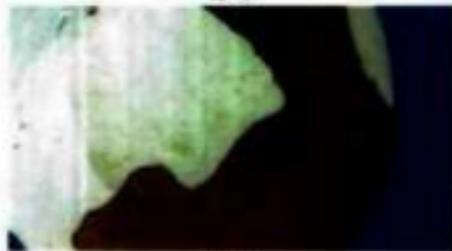


图-6

1. 1号同位素示踪
2-6. 1号同位素示踪

序

本報告書は、坂ノ井山ノ神地帯の村道4号線の拡張工事にあたり、11月19日（月）より11月22日（木）まで試験調査、11月26日（月）～12月26日（木）まで本調査を実施した発掘調査です。

工事予定地の付近には天竺遺跡や出雲沢遺跡などがあり、また現地の事前調査で石器を採集できたことから遺跡が埋蔵されていることが予想されました。

このため試験調査を行い、遺跡の有無の確認を行ったところ、住居跡が確認できましたので本調査に入りました。遺跡の面積は約288㎡（4m幅で72m）の発掘でした。

その結果、縄文時代中期中東部の住居跡2軒、及び平安時代前期の住居跡1軒を確認することが出来ました。本遺跡はこれまで遺跡分布図に載っていない遺跡で、今回の調査で遺跡であることが明らかとなりました。

3軒の住居跡のうち、平安時代の住居跡は、農耕基礎整備時の影響をあまり受けておらず、当時の食器類や貯蔵具等が良好な状態で出土しました。

調査期間が11月下旬から12月末まででありましたが、12月になると数年ぶりの年内の降雪と厳しくなる寒さで調査は難航しました。私や教育次長も発掘調査に加わりましたが、担当者はじめ作業にかかわった人達の、寒風の中、根気強く、そして手際よく、しかも慎重に掘り進む真摯な姿勢に心うたれた次第であります。ここにあらためてご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

南箕輪村教育委員会

教育長 伊 藤 修

例 言

- 1 本書は長野県上伊豆郡南箕輪村660-2地に所在する道ノ内山ノ跡遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は南箕輪村による村道4号線拡張工事を契機に南箕輪村教育委員会がおこなったものである。
- 3 発掘調査は平成13年11月29日から平成13年12月26日までおこない、引き続き整理作業及び報告書の執筆をおこなった。
- 4 土器の年代は簡易年一式におおむねした。
- 5 遺物量は1:60に統一した。
- 6 遺物量割合は1:3、1:4を基準にしているが、小規模の場合に1:2とした。
- 7 調査・整理にあたっての出土遺物及び調査額は南箕輪村教育委員会で管理している。

本文目次

序

目 次

第1章 遺跡の位置と環境	1
第1節 遺跡の位置	1
第2節 自然環境	2
第3節 歴史的環境	2
第2章 調査の経緯	6
第1節 調査の契機と経緯	6
調査記録	6
第2節 調査の体制	9
発掘調査	9
整理作業	9
第3章 遺構と遺物	10
第1節 縄文時代の住居址	10
2号住居址	10
3号住居址	12
第2節 平安時代の住居址	15
1号住居址	15
第3節 その他の遺構	19
土坑1	19
第4章 総 括	20
引用参考文献	
参 照	

第1章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の位置

森ノ月山ノ遺跡は南アルプスと中央アルプスにほりまわった伊那谷北部の天竜川右岸、南箕輪村683番地2号(宇山ノ野)に位置している。天竜川により形成された河原段丘の最上段に位置する遺跡の標高は700mで、遺跡の一部及びその西側は伊那谷内湖路の水田畑帯がひろがっているほか、緩ヶ島をはじめとする水田山脈を一望することができる。



図1-1 遺跡位置図 (1:20,000)

第2節 自然環境

南宮崎村は長野県伊豆山地之部の広く開けた地塊の天竜川右岸に位置している。地形的にみると西に位置する中野山脈部・岳山地域に属する軽・岳南東部の帯地を帯いては、その帯を基質とする扇状地と天竜川により形成された沖積地から成っている。

扇状地は一部天竜川、小沢川の扇状地になっているが、ほとんどが大泉川により形成されたものである。山麓から段丘状地帯までの幅は最大で約4.5km、標高は700mから900mに及び、東への2度のゆるやかな傾斜地となっている。

扇状地基盤部は、扇状地に段丘が形成されている。また、扇状地帯内の流水からなる小沢川の侵食により形成された沢的凹地みられる。

天竜川沿いに狭く河床段丘は最大で標高約40mを張り、一部には扇帯の影響を顕著でるところがあるため、その地形形成は大泉川や天竜川等の河川の侵食だけではないことが想定される。

自然水系としては西の山地より流れる大泉川・大清水川・戸谷川があるが、これらの河川は扇状地帯内陸では状況し水量が激減するが、扇帯部付近で再び湧出する。この他に扇帯部の段丘部を源流とする北沢川・南沢川・横ノ沢川等の小沢川が天竜川に流れ込んでいる。これら小沢川の流水は水量及び水温が比較安定しているので、現在ではそれを利用したツツバシ養魚が行われている。この扇帯部からの流水の水量と水量は、昭和3年に扇状地を横切る形で通られた通流用水幹線水路である天竜水路の完成と、それに伴う大規模な開墾により変化したといわれる。

沖積地は昭和7年から29年にかけて実施された土地改良事業により大規模な水田地帯となったが、それは昔は天竜川により形成された沖積帯状による陸架段地と扇状地扇縁部からの流水により、幾つもの段が点在する大沼地帯であった。近年この地塊は宅地化がすすんでいるほか、国道153号線南宮崎バイパスの建設がすすめられている。

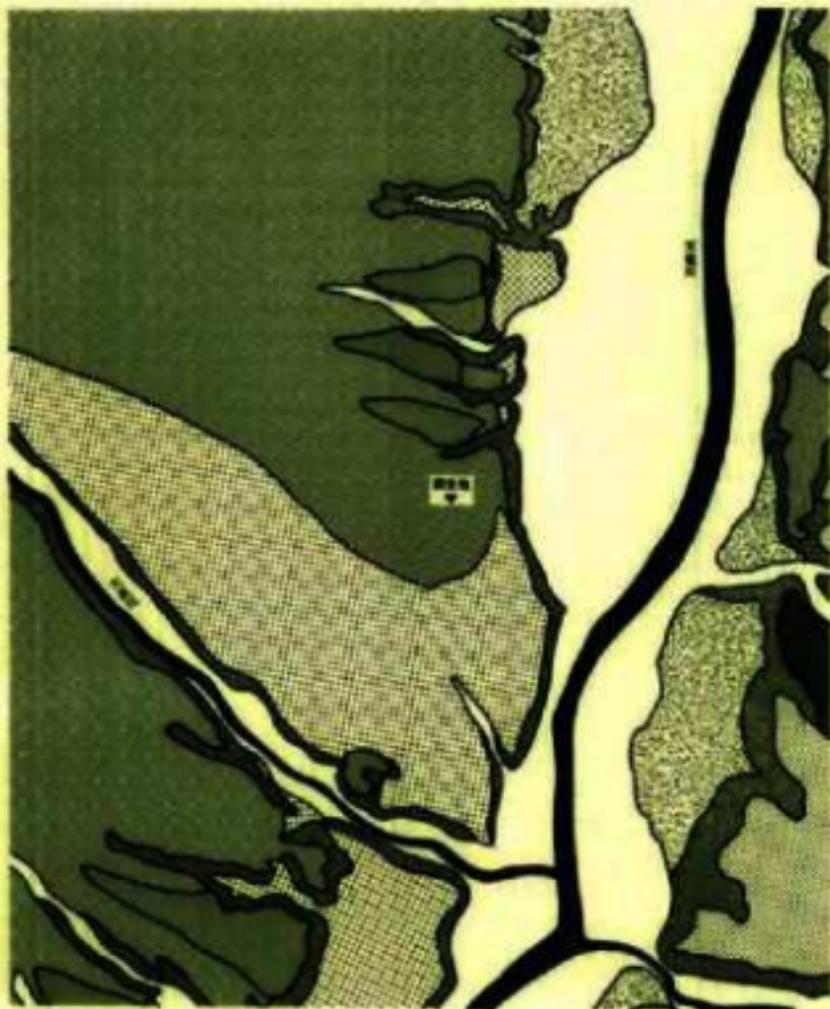
第3節 歴史的環境

南宮崎村には現在確認されている遺跡は20を数えるが、そのほとんどは扇状地を形成する大泉川・大清水川・戸谷川の両岸と、扇状地扇縁部の天竜川右岸段丘上に位置している。また、天竜川沖積地には北隣の真駒町から広がる天竜遺跡がみられる。

これらのなかでも重要なものが「種子遺跡」である。種子遺跡は大清水地帯に位置する阿波郡は昭和33年に旧石器時代の遺跡として発見・調査され、種子遺跡石部一団（国史学文化財調査）の報告を見た。

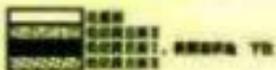
縄文時代では、これまでに天龍遺跡・大芝草遺跡・北高根遺跡・高根遺跡・高根遺跡など主に中央自動車道建設に伴う発掘調査により遺構・遺物が確認されている。これらの調査では前期以前の遺物は確認されていないが、種子遺跡の第3次調査で埴田土器・茅山式土器の破片が出土している。また、大芝草遺跡・高根遺跡・北高根遺跡においても早期中から前期にかけての本島式・天神山式土器片が出土している。

包括的等、集居が想定できる遺構は天龍遺跡・大芝草遺跡・北高根遺跡で確認されている。これらは前期から中期にかけてのもので、量的には中期のものが圧倒的に多い。この他に平成7年に調査が発見され



A. N.

1:10,000



НИЖНИЙ ПОВОЛЖЬЕ

た入原上/平道跡は中期中葉～中葉末にかけての集落的集落であったことが確認され、集落的な色合いが強い遺構・遺物が多く出土した。従属のものには現在のところ遺構・遺物ともに確認されていない。

前期では遺構の検出は少ないものの、種子塚遺跡・南高森遺跡・入原上/平道跡で土器片が出土している。弥生時代では同時代の遺構群が少ない上、検出された遺構・遺物も多くはない。天伯遺跡・北高沢人遺跡・文相河遺跡・入原上/平道跡で中期から前期の遺構・遺物が検出されている。入原上/平道跡からは住居址の他に古銅器遺跡群が検出された。また、沖原地の瓦輪遺跡からは住居址及び水田区画の痕跡は発見できなかったものの、それらの存在をうかがわせる埴輪・水瓦跡・土器・打製石器・石器等の遺構・遺物が出土している。

古墳時代では、種子塚王と墓刀が出土したと伝えられる入山古墳が調査されているほか、北畑外遺跡より銅質鉄土製品が出土し、古墳時代前期終末頃の資料の増加をみた。また、天伯遺跡においては、9軒の住居址が検出され、そのなかから埴輪を欠いてはいるが須恵器の底坪が出土している。

なお、前期調査によるものではないが宮ノ上遺跡より加賀十郎部遺跡付合や五輪塚など注目すべき遺物が出土している。

奈良・平安時代をみると、集落はさらに村内各河川の両岸段丘周辺を基軸にしながら四方の山麓付近にまで広がりをみせるようになる。古代東山道との関連も含め、今後の検討課題の一つである。

また、宮ノ上遺跡からは平安時代、9世紀後半の火葬施設が確認された石輪の墳墓が2基確認された形で出土している。調査を継続してあった阿部海岸段丘遺址は定形で出土し、村落定文化財となっている。

中世には天竜川北岸の段丘周辺にその地形を利用して、榑木城・中込城・金田城・寄賀城・内城などの城郭が築かれている。

表1-1 長山遺跡一覽表

番号	遺 跡 名	地 区	時 代					備 考	
			旧石	縄文	弥生	古墳	平安		中世
1	埴ノ井山/神	埴ノ井	○			○			
2	入原上/平	原	○			○	○	平成7年度調査	
3	入原下	原				○			
4	南高沢	原	○	○					
5	天 王 塚	原					○		
6	南 畑 村	原ノ原	○	○	○	○			
7	宮 輪	埴ノ井-入原中下-三石町		○	○	○	○	○	昭和27年～平成6年度調査
8	山の神	原		○	○				
9	天 伯 塚	原ノ原		○	○	○	○		昭和42年度調査
10	埴ノ井	原ノ原				○			平成6年度調査
11	内 城	原		○		○			
12	南 畑 村	原ノ原		○			○		
13	天 皇 塚	原				○	○		
14	西 畑 村	原	○	○	○	○			
15	北 畑 村	原			○	○	○		平成2年度調査
16	宮ノ上	原		○					
17	天 皇 塚	原		○					
18	天 皇 塚	原		○					
19	阿部海岸	原		○	○				
20	宮ノ上	原		○		○			平成13年度調査
21	榑木	原		○					
22	中 込	原		○					
23	榑木	原ノ原	○	○			○		昭和13年度～平成10年度調査

第2章 調査の経緯

第1節 調査の契機と経過

村道4号線は南北に村内を通る国道19号線の麓ノ井区から村内の西方に位置する大森区へ通じる東西方向に延びる道路で、国道から河津段丘の急上段に至る間は入沢川に沿って道路が設置されている。

この入沢川の両岸にはいくつもの遺跡が確認されているが、なかでも昭和32年に発掘調査が実施された天竺遺跡からは縄文時代中期・古墳時代前期・平安時代の遺物が高い密度で検出され、入沢川周辺の河津段丘上には広い範囲にわたり遺跡がひろがっていることが予想されていた。

平成13年度、村で村道4号線の拡幅工事が実施される事になり、村建設課より教育委員会へ拡幅予定地の遺跡の有無の調査があった。

これを受けた教育委員会は、拡幅予定地は未開拓の場所であったが周辺に遺跡密度の高い天竺遺跡をはじめとするいくつもの遺跡が点在していることや、予定地付近において過去に遺物の発見があったとの地域住民からの話があったことから、遺跡拡幅予定範囲の試掘調査を実施することとした。

これに先駆け、工事が実施される予定地東側に位置する水田の土地地帯等により拡幅範囲内で耕土の掘削が深さ30cm前後行われており、ここから試掘調査に入る前の発掘調査により瓦葺1点を発見した。

試掘調査は拡幅予定範囲が東から西へ向かい狭くなる形となっていたので、調査が可能な拡幅予定地内の東から水田5枚にわたる約200㎡の範囲を調査区とした。

試掘調査を実施したところ位置は3軒が確認できたことから、引き続き本調査に入った。調査にあたっては未開拓の遺跡であったので、調査地の地帯名から遺跡名を麓ノ井山ノ跡遺跡とした。また、調査をすすめるにあたり調査区に平面直角座標体系 ($X=0.00$, $Y=0.00$) の原点を基準に $2m \times 2m$ のグリッドを設定し、グリッドの東側列を X 、Yのアルファベット、南北列を算用数字とした。

調査は試掘調査を平成13年11月15日より開始し、遺跡の位置を確認したのち平成13年12月26日まで調査を行った。

○調査日程

11月

11月10日 トレンチを敷設する。

19日 トレンチの掘削及び土層確認を行う。2軒の住所証を確認。1号・2号住居証とする。

20日 引き続き土層確認を行う。3軒目の住所証を確認。3号住居証とする。グリッド1の西に設定したグリッド4では地山まで遺物基礎部露出時の掘削により埋れられていた遺跡がみられたため、調査範囲をグリッド4より東側に定める。

21日 2号住居証の検出に入る。ピットを掘る確認

12月

12月3日 2号住居証の検出を完了。写真撮影、平面図の記録に入る。

する。

26日 2号住居証と並行して3号住居証の検出に入る。ピット5基とP6を掘削する

27日 3号住居証の検出及び土層確認の記録を行う。調査区内にPMの設定をする。

28日 2号・3号住居証の各ピットの土層断面の記録をとる。1号住居証の検出を完了。

29日 1号住居証より土層・屋敷部の遺物が多数に出土。2号・3号住居証は引き続き検出を続ける。

4日 雨天のため作業中止。

5日 1号住居証は土層断面の記録。2号住居証は



第4圖 河川地圖 (1:5,000)

- 遺物の取り上げ、3号住居址は出土遺物の平
面図をとる。
- 6日 掘削のための作業中止。
- 7日 2号住居址と連続している土坑の掘削開始。
3号住居址は遺物の取り上げと平面図の記録
に入る。
- 10日 1号住居址、土層断面を記録。3号住居址の
測量図が完了。
- 11日 2号住居址の測量図化を開始。
- 12日 2号住居址、平面図完了。1号住居址キマド
の土層断面を記録。
- 13日 掘削のための作業中止。
- 14日 午前中、昨日掘った土坑の地層図、断面と
なり作業中止。
- 17日 2号・3号住居址の写真撮影と1号住居址の
キマドの掘削及び出土遺物の図化を行う。
- 18日 1号住居址の出土遺物の図化及び一部遺物の
取り上げを行う。
- 19日 昨日に引き続き1号住居址の出土遺物の図化
及び遺物の取り上げを行う。午後、作業終了。
- 20日 1号住居址キマド掘削の出土遺物の図化と取
上げ及び住居址の測量図化を行う。
- 21日 掘削のための作業中止。
- 22日 掘削のための作業中止。
- 23日 1号住居址測量図が完了。キマドの断面と記
録、測量図の全体測量、片づけを行って調査
を全て終了する。

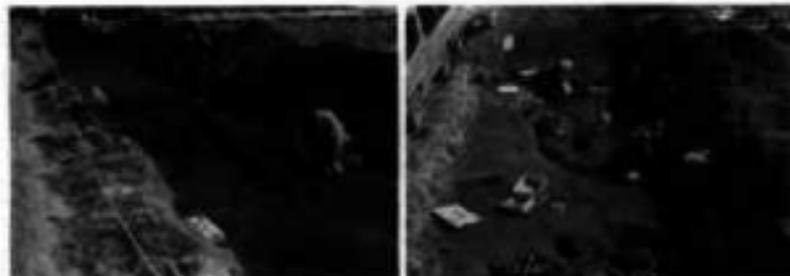
第2節 調査の体制

○発掘調査

- 調査担当 佐野 謙 (奈良編制教育委員会 社会教育部 学芸員)
- 調査作業員 小沢よみ子 松澤実太郎 松澤 美和 (五十音順)
- 事 務 司 伊藤 穂 (奈良編制教育委員会教育長)
- 堀 正 (奈良編制教育委員会教育次長)
- 山崎 文彦 (奈良編制教育委員会社会教育部長) → 13、3
- 永賀 七志 (奈良編制教育委員会総務課) → 13、3
- 宮下 基司 (奈良編制教育委員会社会教育部)

○整理作業

- 整理担当 佐野 謙
- 整理作業員 加藤美香子 小沢よみ子 (五十音順)
- 事 務 司 伊藤 穂 (奈良編制教育委員会教育長)
- 堀 正 (奈良編制教育委員会教育次長)
- 田中 聡 (奈良編制教育委員会社会教育部) 13、4-



第3章 遺構と遺物

第1節 縄文時代の住居址

2号住居址

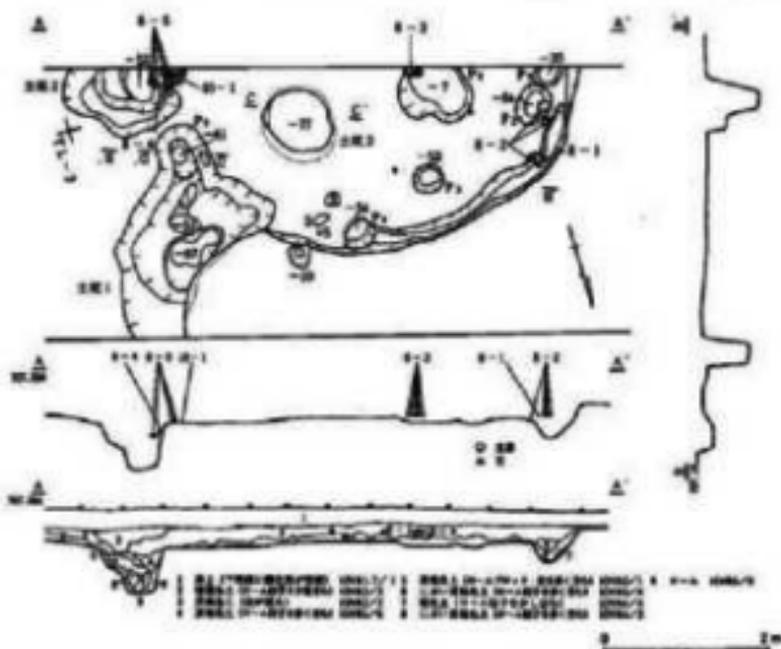
1号住居址より約11m西側のYし-3付近で検出した。住居址のプランは住居の大部分が南側の調査区外にはいっているため判然としないが、構内形を呈していると思われる。

壁厚は25cm-30cmである。壁の製方は全体的にゆるやかな傾斜を呈しているが、北東部分で土境1と重複しており、壁の立ち上がりは不明瞭だった。また東側においても壁の立ち上がりをとらえることができなかった。距離は北側の壁の端部にめぐらされ、深さは16cm-9cmとなっている。

床面はローム層まで掘り込まれ、厚く埋め込まれているが、検出した範囲では一部を除き地底により床面はほとんど破壊されている状態だった。

ピットは多数検出した。主柱穴はP₁・P₂・P₃と思われる。これらの径は64cm-53cmと安定している。P₄は壁方が斜めになっており、傾伏となっている。

また、住居址東側に土境2、その西側の住居址中央部よりのところに土境3がみられた。土境2は不整円



第4図 2号住居址其例(1)



FIG. 10

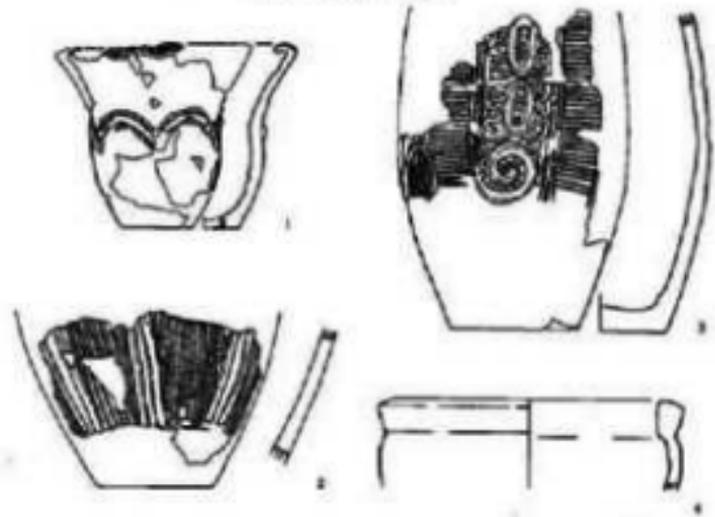
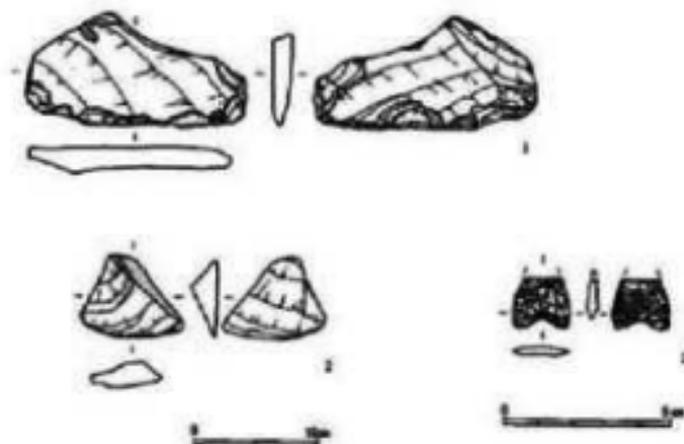


FIG. 11



FIG. 12



第10圖 2号住居址出土石器の複製

形を呈し、基部から頂部状に割り込まれ表面は平直になっている。この土坑3と隣する住居址東側断面には長さ9cm-10cm程の小石が斜めに埋め込まれるような状態でみられた。土坑3の覆土層からは土器破片が出土している。土坑3は長約6cm、幅約7cmの不等円形を呈しており、断面形が袋状で表面は平直になっている。この土坑3は覆土の一部に灰が認められたことから焼物窯、人為的に埋められたことが考えられる。この土坑3からは遺物の出土はみられなかった。灰は調査区内の焼物断面にはみられなかった。遺物は覆土及び灰層直上より黒鉄器土器（図8-1～図8-5）、燧石製石器（図10-1・2）、ピット2の覆土中より石器（図10-3）が出土している。

本址の時期は遺物から縄文時代中期中葉末であると思われる。

3号住居址

2号住居址の西側に隣接した位置、YB-4付近より検出された。住居址のプランは住居の3分の1程度が調査の調査範囲にはいっているため判別としないが、焼物形を呈しているものと思われ、主軸はY-7び一帯を示すと思われる。

壁残高は15cm-6cmである。壁の傾きは全体的にゆるやかな傾斜を呈しているが北西側部分がほぼ垂直になっている。壁残高はあまりなかったものの検出した範囲では全体にわたって壁の立ち上がりをとらえることができた。周壁は壁の両端にめぐらされ、厚さは15cm-4cmである。表面はローム層まで割り込まれ厚さ削られているが、検出した範囲では東壁付近の一部を除き概ねにより表面はほとんど破壊され、凹凸が著しい状態だった。

ピットは8基検出された。このうち主柱穴はP₁・P₂・P₃と思われる。P₃は斜めに割り込まれ断面が袋状と

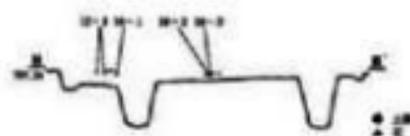
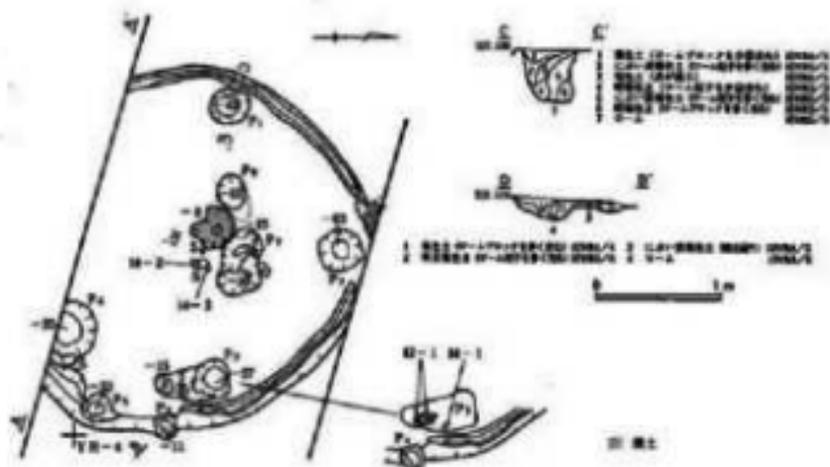
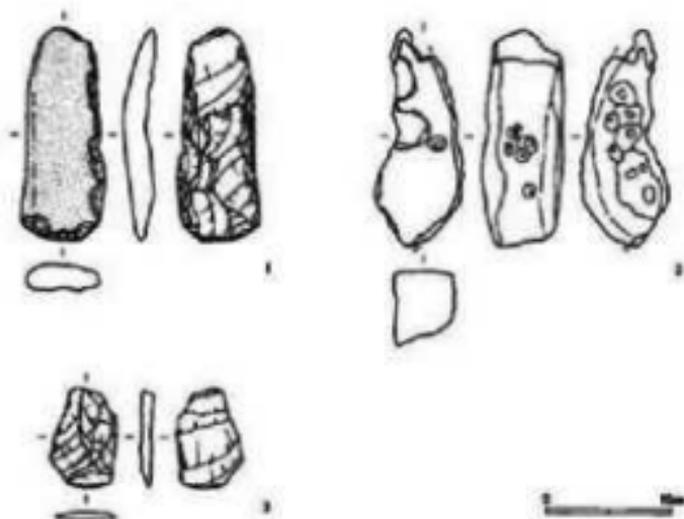


图10 3号遗址出土土器平面图



第13図 3世紀前後の出土物(複製)・複製図



第14図 3世紀前後の出土物(複製)・複製図

なっている。

伊豆はPとPのほぼ中央に位置している。伊豆の植生は地床がで長約50cm、幅約20cmの不規則形の樹り込みになっており、深さは3cmと浅い。伊豆は赤土に硬化している。伊豆で4つの石が埋蔵土より出土したが、これらの石には樹木の跡は認められなかった。

遺物は少なく、佐野遺集より鉄製土器(図12-1)1点、打製石片(図14-1)、伊豆付近より石匙(図14-2)、石鏝(図14-3)がそれぞれ1点出土しているほか、表面採集により埋蔵土層より石鏝(図12-5)がみられた。本址の時期は遺物から縄文時代中葉中葉末であると思われる。

第2節 平安時代の住居址

1号住居址

調査地の東端、Y丁-1付近で検出した。住居のプランは住居址の南北壁が調査区域に入っているため不明であるが、長軸は5.0mと思われる。壁残高は東壁で24~26cm、西壁で20~23cmである。土壁は片一方一辺を示すと思われる。東壁には住居の出入口施設とみられる長さ約30cm、幅約30cmの溝り込みがみられた。土層観察から他の遺構の位置とは認められず、この住居址に伴うものと判断した。

この部分の敷方は中央に1段を設ける階段状となっている。1段目は東から住居址内に向かって緩やかな傾斜になっており、2段目にあたる部分の段は直線状に築地しておらず、東寄り僅かに広くなっている。階段状の東側の傾りは全体的に東傾だった。南壁は西壁と東壁の入口施設階級にみられる。溝りは西壁部分で30cm×5cm、東壁部分で5cm×2cmである。

東壁はローム層まで掘り込み残さず埋められているが、住居址東側とオマド周辺の一部を除くと全体的に傾りは東傾である。特に住居址北東部分は掘り込みでローム層にかなりの凹凸がみられ、はっきりと東傾をとらえることができなかった。また、東壁付近の東壁には灰褐色粘土層じょうの粘土、住居址北側の東壁には灰褐色粘土がみられた。

ピットは3基検出した。遺構全てを掘出していないので明瞭としないが検出したピットから判断すると、主室穴はP1と思われる。また、オマド東側のP1・P2、入口施設と思われる掘り込み部分のP3・P4がみられるが、これらの深さは12cm~22cmと浅いもののオマドと入口施設と思われる部分を積み重ねを中心に対称に配置されピットの深さがほぼ同等であることから、これらは支柱であると思われる。

このことからこの住居址は主室を南北中央部に配し、東両側に支柱をもった本柱の構造であることが考えられるが、住居内の壁の周囲に主室穴がある可能性を残す。

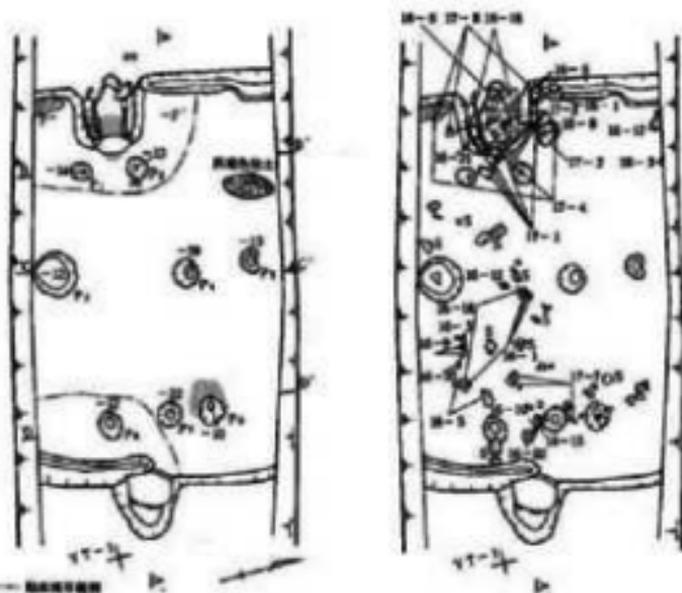
P3・P4についても位置的にみて本柱に関連するものであると思われるが、P1・P2・P3・P4・P5と同時期のものなのか詳細な調査があるのかは、はっきりしなかった。

オマドは東壁に構築されており、灰褐色粘土と和石による石芯粘土オマドである。壁をわずかに掘り込み構築されている。オマドの開口には長さ45cm、幅23cmの扁平な安山岩を敷石に据えている。また、敷全体に芯として石敷がされているが、これらの石は扁平な砂岩を縦長に据えており、壁から開口にかけて徐々に小さなものを並べている。オマド床面に粘土がみられたが、あまり広範囲には広がっていない。構築においても火焼の影響は僅かだったが、東部の築地部分は赤変質化していた。

また、オマドの東部は凹凸があるものの築地部から壁にかけて緩やかな傾斜がつけられていた。

遺物はオマド付近と住居東側に集中して多くみられ、黒色土群（内訳）45点（遺16-1~遺16-15）、陶2点（遺16-16~17）、瓦2点（遺16-18・19）、瓦割筒5点（遺17-1~遺17-5）、小型瓦2点（遺17-7・8）、銅形器2点（遺18-20・21）、青銅器2点（遺18-1・2）、銅製物1点（遺18-3）、鍍2点（遺18-4・5）、灰陶陶器類1点（遺18-22）、銅1点（遺18-23）が出土しているほか、壁土中より磁石1点（遺18-6）と鉄製品1点（遺18-7）、鉄片3点（遺18-8）がそれぞれ出土している。

本室の時期は遺物から平安時代前期、9世紀中葉であると思われる。



— 细胞壁 —

图 1

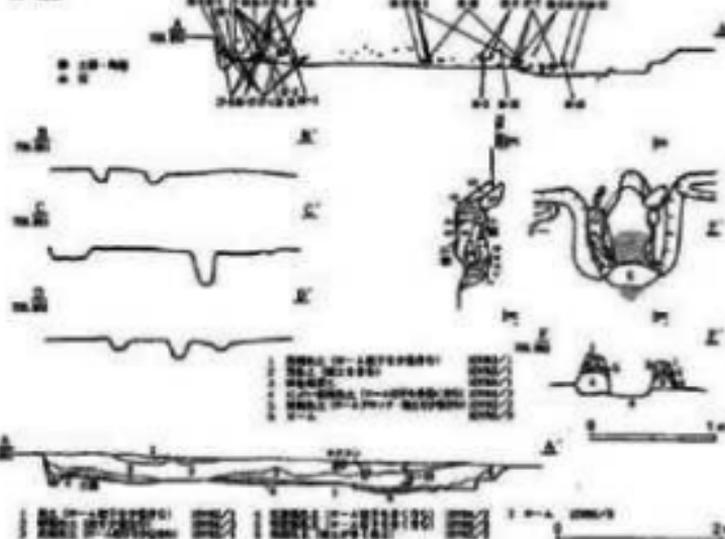


图 1 中位维管束结构

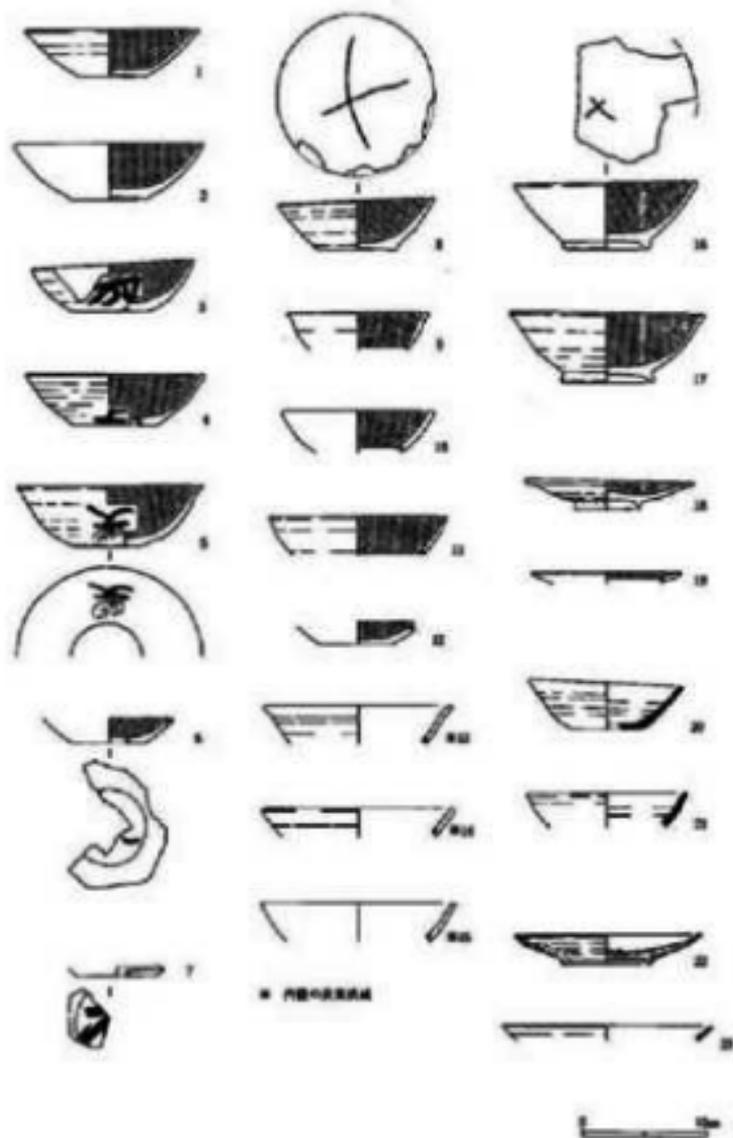


图 1 中世纪的陶瓷器碎片(1)

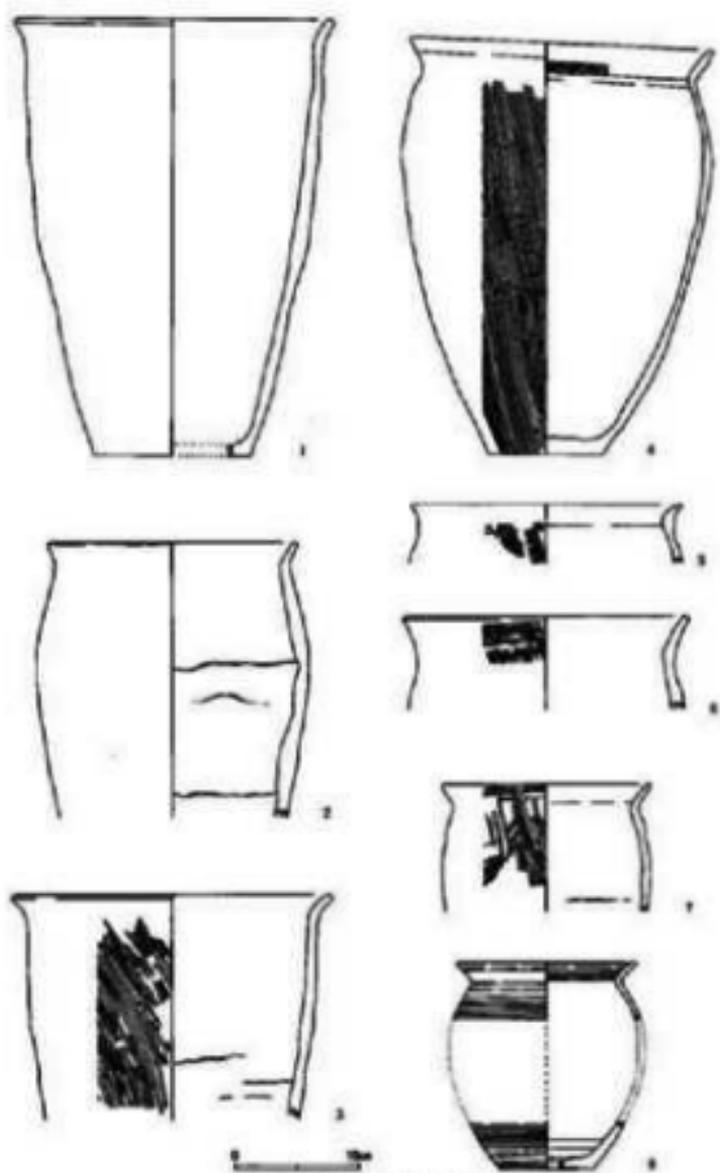


图10 1号窑址出土器物(局部)

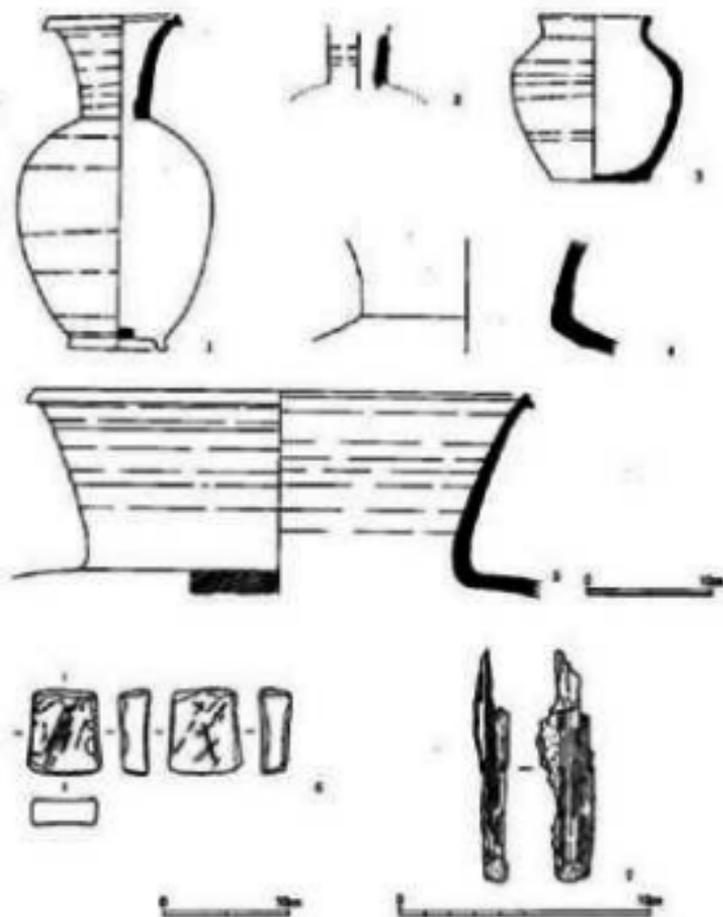


図3 1号墳出土土器・金属器類

第3節 その他の遺構

土坑1

2号墳出土の土器類部分と重複している。プランは土坑の一部が調査区域に入っているが、不整形を呈している。掘方は東側から西側へ斜めに掘り込まれ、底層は浅心がみられた。また、西側は傾斜となっている。

墓土中からの遺物の出土はなかった。時期は別所としないが、2号墳出土F₂の土層層面の観察から2号墳被葬以後のもつと推定される。

第4章 総 括

今回の調査では縄文時代中期中葉末の住居址2軒と平安時代前期の住居址1軒を抽出した。以下、調査結果について成果と課題をあげ、要項であるがまとめた。以下、調査結果としてまずあげられるのは平安時代前期の住居址である。住居址全体の抽出ではなかったものの、この住居址からは良好な状態で土器・土器片・土器片が出土した。この住居址にみられた土器類は褐色土器が主体となっていたが、これまでの村内の調査事例と比較すると褐色土器が全層の土器を占める時期のものとしては、内容・数ともに最も充実したものになった。また、1軒の住居から出土した土器・土器片の量もこれまでの村内の調査事例のなかでは最多のものであり、出土した土器全体に対し土器・土器のみみられる土器の占める割合が約90%となっており、この住居址の性格を示唆するものと思われる。

住居址のつくりについても出入口位置とみられるものの抽出や、開口に礎石を据えたカマド、住居の土壁方向に支柱を置き、それに固定する中央軸に支柱を据える2本柱間隔の構造が想定されるものであることなど、これらもこれまでの村内の調査事例にはみられなかったものであり、遺物・遺構ともに新たな資料の追加をみたことの意義は大きいと考える。

この住居址の埋蔵時期は遺物から中葉中葉末のものと思われるが、出土した土器・土器片の量や土器類の調査は守形式の瓦葺い屋根が出土している他、礎石が出土していることから土器類の存在がうかがえられ、調査の中核的な住居であったことが想定される。

この時期の住居は既に集落内に中核的な役割をもつと考えられる大型住居とそれに付随する中・小型住居、縄文遺構物で構成される形態がみられるようになっているが、今回抽出した住居址は長径が5mほどと規模的には中型の住居に入る。集落全体の規模と中核的な役割をもつ住居の規模が比例する等のことが考えられるが、今回の調査は広範囲にわたるものでなく抽出住居址が1軒のため河内郡内にある同時期の住居址と比較することができず、現時点では資料不足でありこの住居址の性格についての結論は今後の資料の増加を待って検討しなければならない。

また、土器類についても今のところ出土事例が限られているため使用されている文字に共通性は見出せず検討を加えるまでには至っていないが、これについても今後課題として取組んでいく必要がある。

縄文時代の遺構としては縄文時代中期中葉末の住居址2軒を抽出したが、双方ともに遺構の影響を著しく受けていたため保存状態は良好ではなかった。しかし、河内郡北の遺址最上段で土器類が出土していることが明らかとなったことで、河内郡の調査する入部川と部ノ河内川に挟まれた地域とその周辺は広範囲にわたり集落となっていたことが想定できるようになった。

特に河内郡の東に隣接する天徳遺跡は昭和2年に調査が行われているが、トレンチ掘りを主体とした調査であるにもかかわらず、出土した縄文土器の量は久保上ノ平遺跡より僅かに少ない程度で、極めて高い密度で遺構のあることが想定される。これまで天徳遺跡に隣接した地域では同時期の集落は認められなかったが今回の調査によりこの一帯には天徳を中心とする集落にわたる大規模な集落群が形成されていることがうかがえる。

今後、この地域を念の村内の遺跡分布と範囲の調査を改めて行い、保存対策をさらに検討する必要があることが大きな課題になると思われる。

なお、最後に思ったが不平等の厳しい環境のなかで作業にあたって頂いた作業員の方々、本巻の作成にあた

と多大のご尽力を頂いた関係者各位にお礼を申し上げますとともに、ご指導、ご協力を頂いた先輩諸氏に改めて感謝し、ご執事を頂きながらそれを伝へられましたことをご挨拶いたします。

第2表 1号住居給付金土葬一覧

大 別	種 別	基 礎	数 量	%	遺骨・別居の合計
土 葬 額 (20点)	普通土葬 (内訳)	年	15	65.2	遺骨 5点「上」・「第八土」か？ 不明(3) 別居 1点「X」
		戦	2	8.7	別居 1点「X」
		墓	2	8.7	特
	改葬墓	年	2	8.7	*
		戦	1	4.35	*
		墓	1	4.35	*
改葬費 (8点)	土葬費	長期間費	6	75.0	
		小期間費	2	25.0	
野埋費 (5点)	改葬費	長期間費	2	40.0	
		短期間費	1	20.0	
		費	2	40.0	

【注 記】

0		100
	年 74%	戦 13% 墓 13%

【別表A】

0		100
	長期間 75%	小期間 25%

【別表B】

0			100
	長期間 40%	短期間 20%	費 40%

第19表 1号住居給付金土葬別居別構成

第3頁 出土土器調査表 No.1

調査区	調査No.	調査	形 式 (cm)			類 型		出土	調査	出 土 品			数量	出土状況	備 考
			口径	高さ	底径	高さ	内径			外 径	内 径				
2号区	2-1	調査	12.0	5.5	14.2	ナフ	ナフ	須賀守イ	調査	1.0-1(須賀) 2.079.56	1.0-1(須賀) 2.079.60	15	調査区上	内面に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	2-2	+	-	5.5	-	+	+	須賀	調査	1.0-1(須賀) 2.079.56	1.0-1(須賀) 2.079.56	15	+	内面に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	2-3	+	-	15.1	-	+	+	須賀 (須賀守イ)	調査	1.0-1(須賀) 2.079.56	1.0-1(須賀) 2.079.60	15	+	内面に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	2-4	+	21.1	-	-	1.0ナ	1.0ナ	須賀須賀	調査	須賀須賀 2.079.56	須賀 2.079.56	15	調査	内面に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	2-5	+	26.1	-	-	ナフ	ナフ	須賀須賀	+	1.0-1(須賀) 2.079.56	1.0-1(須賀) 2.079.60	15	調査	内面に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
3号区	3-1	調査	-	14.2	-	ナフ	ナフ	須賀守イ	調査	須賀 2.079.60	須賀 2.079.60	+	調査区上	内面に黒土色の付着している。	
4号区	4-1	須賀 (2)	14.2	5.1	2.0	ナフナフ	ナフナフ	須賀	調査	須賀須賀 2.079.56	須賀 2.079.56	15	調査区上	内面、須賀須賀に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	4-2	+	15.2	5.1	4.5	+	+	+	調査	須賀 2.079.56	須賀 2.079.60	25	調査上	内面、内面に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	4-3	+	12.7	5.8	5.7	+	+	須賀 (須賀守イ)	調査	須賀 2.079.60	須賀 2.079.56	15	調査区上	内面、須賀須賀に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	4-4	+	14.2	7.5	4.1	+	+	須賀	+	1.0-1(須賀) 2.079.56	須賀 2.079.56	25	調査上	内面、須賀須賀に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	4-5	+	14.2	5.1	4.9	+	+	須賀 (須賀守イ)	+	須賀 2.079.60	須賀 2.079.56	15	調査	内面、須賀須賀に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	4-6	+	-	5.0	-	+	+	須賀	+	1.0-1(須賀) 2.079.60	須賀 2.079.56	14	ナフ須賀	内面、須賀須賀に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	4-7	+	-	4.0	-	+	ナフ	+	+	須賀 2.079.60	-	15	調査上	内面、須賀須賀に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	4-8	+	12.2	5.1	2.0	+	ナフナフ	須賀 (須賀守イ)	+	1.0-1(須賀) 2.079.60	須賀 2.079.56	15	調査	内面、須賀須賀に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	4-9	+	11.4	-	-	+	+	須賀須賀	+	1.0-1(須賀) 2.079.60	須賀 2.079.56	15	+	内面、須賀須賀に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	4-10	+	12.2	-	-	+	+	須賀 (須賀守イ)	+	1.0-1(須賀) 2.079.60	須賀 2.079.56	15	+	内面、須賀須賀に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	
	4-11	+	14.2	-	-	+	+	須賀須賀	+	須賀 2.079.60	須賀 2.079.56	15	調査上	内面、内面に黒土色の付着している。	
	4-12	+	-	5.8	-	+	+	須賀 (須賀守イ)	+	1.0-1(須賀) 2.079.60	須賀 2.079.56	25	調査区上	内面、内面に黒土色の付着している。内面に黒土色の付着している。	

第2表 高土土層観察表 No.2

層別	層厚[m]	開始	深 度 [m]			試 験		試 験	備 考	名 義		地質	土質記号	備 考
			0.5m	1.0m	1.5m	試 験	試 験			凡 例	凡 例			
16-15	厚 (1.1)	15.2	-	-	400PF 400PF	400PF 400PF	標準液	標準	+	CL-標準色 2.275 50	液状色 2.275 50	100	液状土	内層の試料が採取してある。内層の土質は多量に下層。
16-16	*	15.3	-	-	*	*	*	*	+	CL-標準色 2.275 50	液状色 2.275 50	100	液状土	内層の試料が採取してある。内層の土質は多量に下層。
16-16	*	15.4	-	-	*	*	無 試	+	+	CL-標準色 275 50	液状色 275 50	100	*	内層の試料が採取してある。内層の土質は多量に下層。
16-16	厚 (1.1)	15.4	1.0	1.50	*	*	無 試 (液状土層)	-	-	液状色 275 50	液 色 275 50	50	砂土	内層、砂に混入している。内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。
16-17	*	15.7	1.0	1.05	*	*	標準液	-	-	CL-標準色 275 50	液 色 275 5.75	50	液状	内層、内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。
16-18	厚 (1.1)	15.8	1.2	1.5	*	*	標準液	-	-	CL-標準色 275 50	液 色 275 50	100	液状土	内層、内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。
16-19	*	15.9	-	-	*	*	無 試	-	-	CL-標準色 275 50	液 色 275 50	100	液状土	内層、内層の試料は多量に下層。
16-20	厚 (0.8)	15.9	1.5	1.3	*	400PF	標準液	-	-	液状色 2.27 50	液状色 2.27 50	50	液状土 液状土	内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。
16-20	*	15.9	-	-	*	*	無 試 (液状土層)	-	-	液状色 275 50	液状色 275 50	100	液状土	
16-20	厚 (0.8)	15.9	1.1	1.4	*	*	*	-	-	液状色 2.27 50	液状色 2.27 50	50	*	内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。
16-20	厚 (0.8)	15.9	-	-	*	*	*	-	-	液状色 2.27 50	液状色 275 50	100	液状土	内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。
17-1	標準層	16.8	15.0	16.2	400PF	400PF	無 試	-	-	CL-標準色 2.275 50	CL-標準色 2.275 50	50	砂土 液状土	内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。
17-2	*	16.8	-	-	*	*	無 試 (液状土層)	-	-	CL-標準色 275 50	CL-標準色 275 50	50	砂土 液状土	内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。内層の試料は多量に下層。

第3表 出上土の組成表 続1

産地	採掘%	産種	容 量 (cm ³)			容 量		加 入	備 考	含 量			抽出	出上位置	備 考	
			石	砂	土	容 積	容 積			容 積	容 積	容 積				容 積
1号産	10-1	赤土	2.1	-	-	PPPP	PPPP	無 入	無 入	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	50	PPPP	
	10-4	*	2.2	2.1	2.1	PPPP	PPPP	無 入	無 入	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	50	PPPP 層上中	全体的に土質が少なく、砂の多い土質が若干あり、抽出PPPPが若干あるがほとんどない。
	10-5	*	2.2	-	-	*	*	無 入	-	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100	赤土層上 層上中	土質が若干あるがほとんどない。抽出PPPPが若干あるがほとんどない。
	10-6	*	2.1	-	-	*	*	無 入	-	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100	*	抽出PPPPが若干あるがほとんどない。
	10-7	赤土 (2)	2.2	-	-	*	*	*	*	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	20	*	抽出PPPPが若干あるがほとんどない。抽出PPPPが若干あるがほとんどない。
	10-8	*	2.2	2.2	2.2	PPPP	PPPP	無 入	無 入	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	50	PPPP 層上中	抽出PPPPが若干あるがほとんどない。抽出PPPPが若干あるがほとんどない。
	10-1	赤土 (2)	2.2	2.2	2.2	*	*	無 入	無 入	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100	赤土	抽出PPPPが若干あるがほとんどない。抽出PPPPが若干あるがほとんどない。
	10-2	*	-	-	-	*	*	無 入	無 入	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100	赤土層上	抽出PPPPが若干あるがほとんどない。
	10-2	赤土 (2)	2.2	2.2	2.2	*	*	無 入	無 入	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100	赤土	抽出PPPPが若干あるがほとんどない。抽出PPPPが若干あるがほとんどない。
	10-4	赤 (2)	-	-	-	PPPP	PPPP	無 入	無 入	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100	赤土層上	抽出PPPPが若干あるがほとんどない。
10-4	赤	2.1	-	-	PP	PP	無 入	無 入	0.00-0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100	赤土層上 層上中	抽出PPPPが若干あるがほとんどない。抽出PPPPが若干あるがほとんどない。	

第4表 出上土の組成表

産地	採掘%	分 類	品 名	容 量 (cm ³)			重量 (g)	出上位置	備 考
				長さ	幅	厚さ			
2号産	10-1	硬質石灰	砂質石灰	6.8	13.4	1.2	150	抽出	
	10-2	*	砂質	5.6	6.3	1.6	40	層上中	
	10-3	石灰	高純石灰	(1.50)	1.75	0.25	1	P ₂ 層上中	先験的大体
3号産	14-1	行楽用砂	砂質	10.7	5.95	1.5	145	赤土層上	
	14-2	石灰	雲山砂	(13.4)	5.35	4.8	345	*	大部分が欠損。抽出に難い。抽出PPPPが若干あるが、抽出にも抽出PPPPがある。
	14-2	硬質石灰	砂質	5.55	4.25	0.6	34	*	
1号産	10-4	石灰	高純石灰	5.2	4.4	2.0	54	層上中	4層上にも抽出PPPPあり。

第5表 出上土の組成表

産地	採掘%	分 類	容 量 (cm ³)			重量 (g)	出上位置	備 考
			長さ	幅	厚さ			
1号産	14-7	石灰	9.2	2.25	1.4	12	層上中	強い抽出PPPPのものが多い。

圖 版



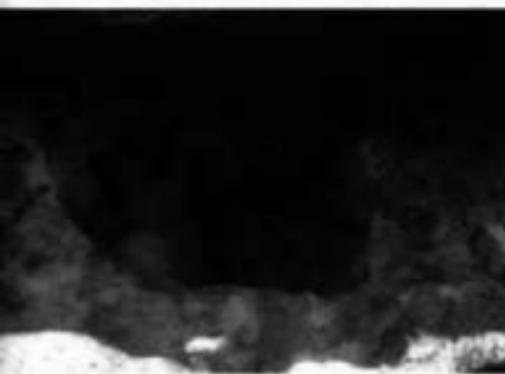
1. 調査地
風景



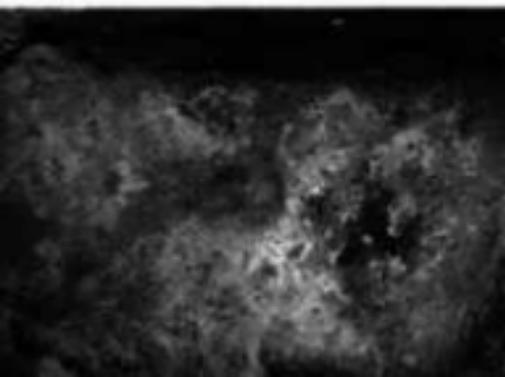
2. 調査地
風景



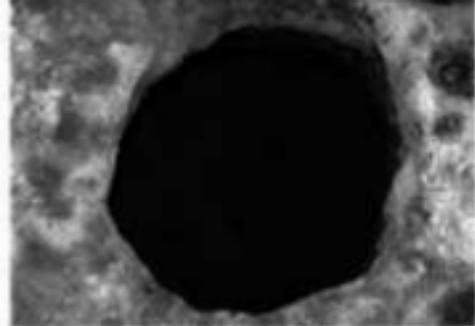
1. 24000
101 00



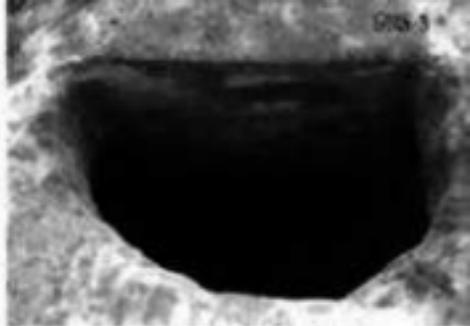
2. 24000
102 00



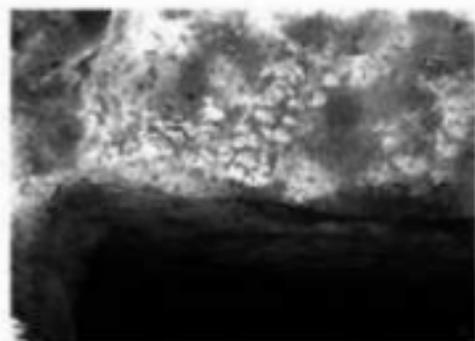
3. 24000
103 00



1. 2000X 100 50



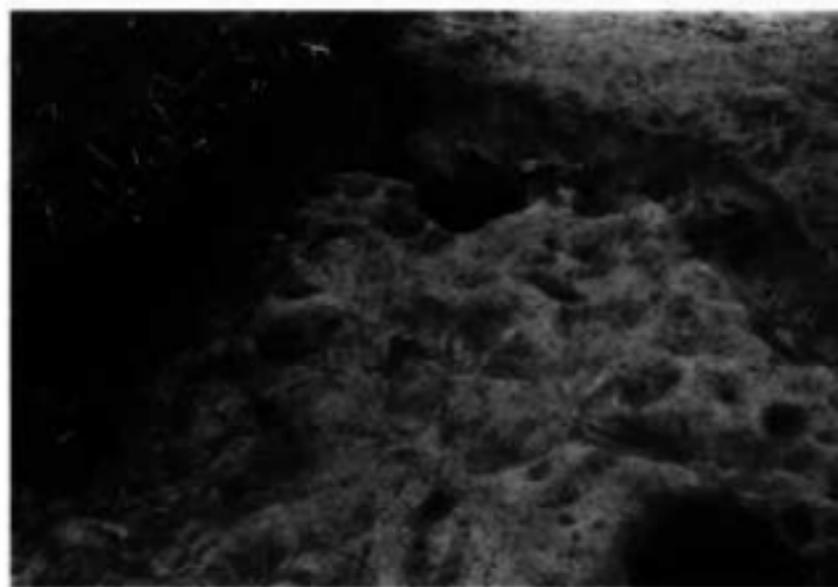
2. 2000X 100 1000



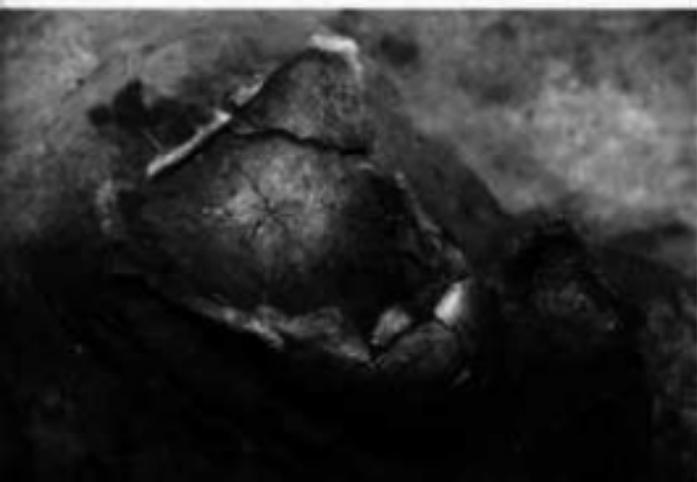
3. 2000X 100 10000



4. 2000X 100 10000



5. 2000X 100 10000



1. 20000
22

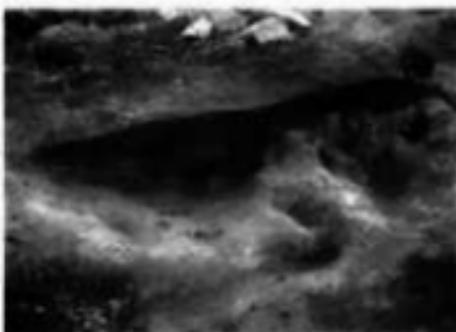
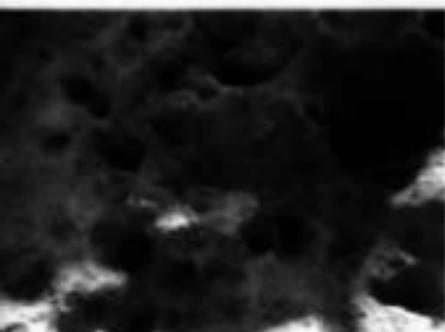


2. 20000 - 30000

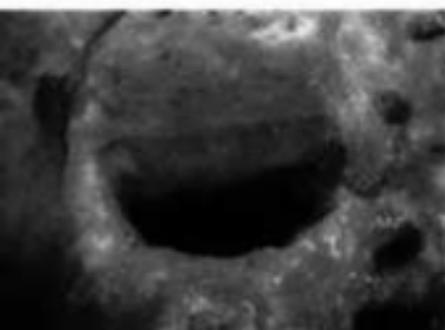




1-2
3号試料
1層

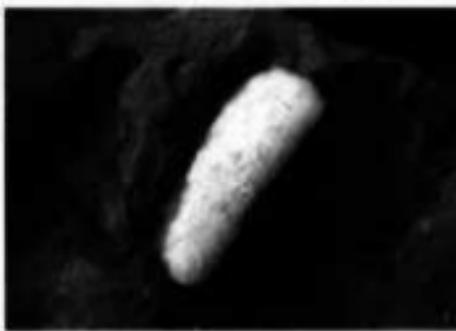
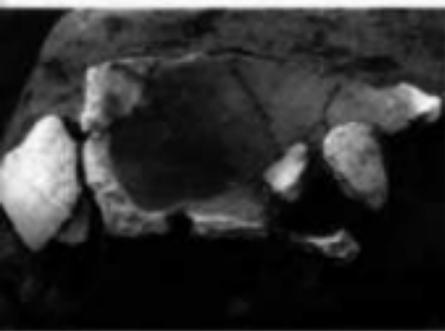


2-4
3号試料
8層



5. 3号試料
7. 2層

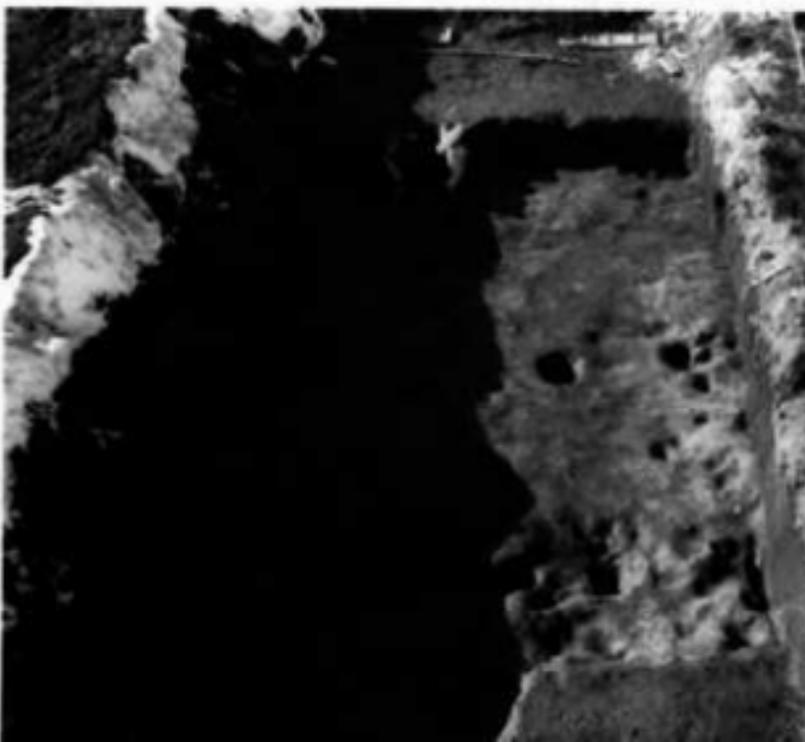
6-8
3号試料
遺物(1)試料



1. 1900M
遺跡状況



2. 1900M
遺跡





1. 1号自然体 サマシロ虫 (東方2号)



2. 1号自然体 サマシロ虫 (比叡1号)



3. 1号自然体 サマシロ虫 (比叡1号)



4. 1号自然体 サマシロ虫 (東方2号)



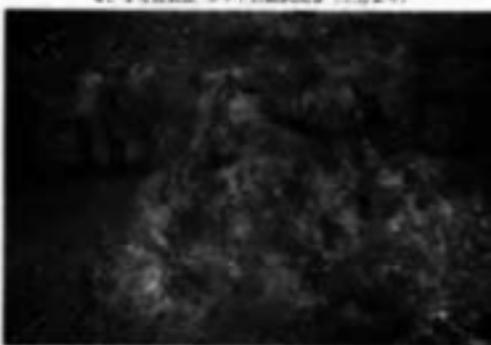
5. 1号自然体 サマシロ虫 (東方2号)



6. 1号自然体 サマシロ虫 (比叡1号)



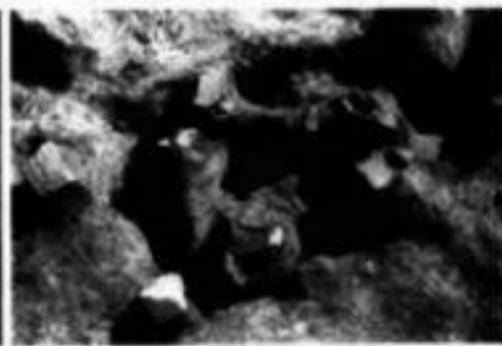
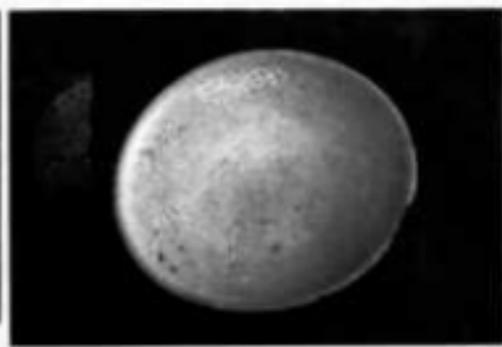
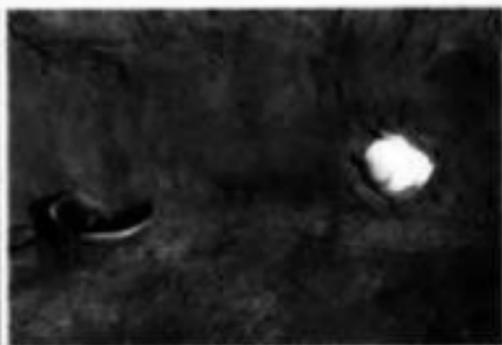
7. 1号自然体 サマシロ虫 (比叡1号)



8. 1号自然体 サマシロ虫 (比叡1号)



1-8 1号窑址 遺物出土状況





1-1



1-2



1-3



1-4



1-5

1-6

1-7

1-8

1-9

1-5 200MM
1:1



1-6

12-12



12-2



12-1

1-2

2000000000



12-3



12-1

3



12-1



12-2



12-3



4



6



12-1



12-3

6



12-2

7



2-7 2000000000





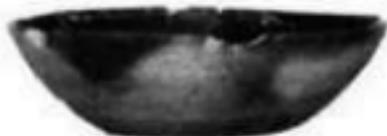
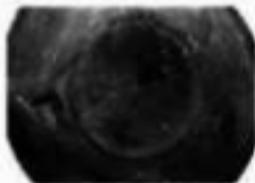
N-1

1



N-2

2



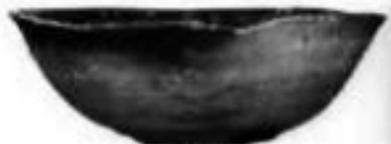
N-3

3



N-4

4



N-5

5



N-6

6



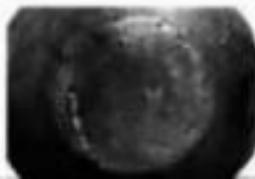
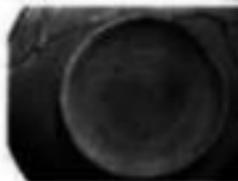
N-7

7



N-8

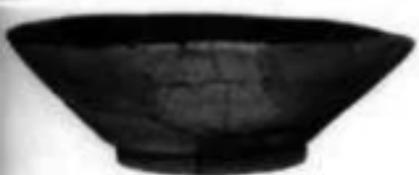
8





15-18

2



15-22

3

15-21



15-23

4



5



15-6

6



15-12

7



15-5



15-13



15-14



15-25



15-24



15-11



15-8



15-10



15-12



15-13



15-10



15-11



15-12



15-13



15-14

1-3 1904 R.1221

9



17-4

1



17-5

2



17-6

3



17-8

4



17-7

5



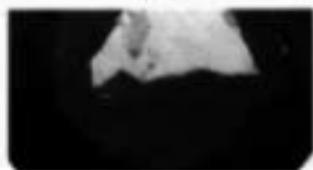
17-8

6



7

1-30 10000.01.0000



17-8

8



9



18-1

8



18-2

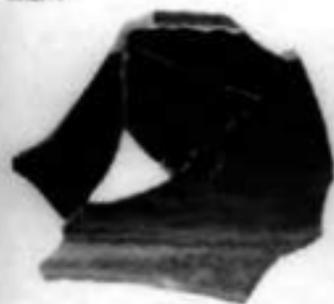
9



0.00.00



0.00.00



10-5

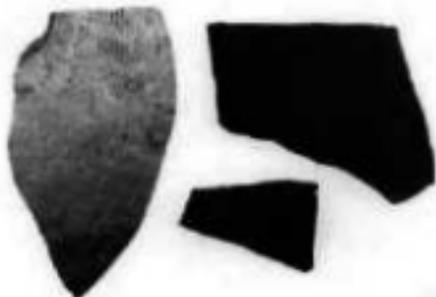
1



2



3



4



10-2

5



10-4

6



10-7

7



8



10-8



9

1-9 1000X 放大

引用参考文献

- 長野県教育委員会 1972 『長野県中央道徳教育文化財保護施設調査報告書 上野原国史跡
資料館その1 - その2』
- 社団法人 中野建設協会 1985 『天竜川上流地質図』
- 長野県史料行会 1981 『長野県史 考古資料編 全1巻(1) 遺構・遺物』
- 長野県県政文化財センター 1980 『中央自動車道長野県 県政文化財施設調査報告書4 一松本
市内その1 - 遺構編』
- 南宮輪村史編纂委員会 1990 『南宮輪村誌 上巻 自然編・遺跡編・信仰生活編』
『南宮輪村誌 下巻 歴史編』
- 南宮輪村教育委員会 1987 『天竜道跡中央道徳教育財』
1989 『種子倉遺跡緊急発掘調査報告書(第1次発掘調査)』
1992 『高橋遺跡』
1995 『大正東成跡』
1992 『北谷外遺跡 宅地造成事業に伴う縄文文化財緊急発掘調査報
告書』
1999 『筑輪遺跡 上伊那郡南宮輪村誌ノ并ニ三巻』
1996 『宮ノ上墳墓 宮ノ上遺跡発掘調査報告書』
1997 『八坂上ノ平遺跡 湯田公園及び宅地造成に伴う縄文文化財発
掘調査報告書』

伊豆半島築港工事に伴う歴史文化財調査報告書

堀ノ井 山ノ神遺跡

平成15年3月25日 発行

編集 浜松市上伊豆郡西宮郷村教育委員会

発行 浜松市上伊豆郡西宮郷村教育委員会

印刷 沼津印刷株式会社
